＊竹田市感染症情報（竹田市独自集計）＊

令和7年第38週（9月15日～9月21日）

9月

新型コロナウイルス感染症は減少傾向です

今週、竹田市調査医療機関からの報告数は70名で、先週の94名から減少しました。豊肥保健所管内では、定点あたり9.00人から6.00人に減少し、大分県全体でも定点あたり13.14人から12.69人に減少しました。しかし、依然として流行発生注意報レベルを上回っています。

今週は、インフルエンザA型の報告も2名ありました。どちらの疾患も、発熱や咳、のどの痛み、全身のだるさなど似た症状を示しますが、感染対策は共通ですので、感染拡大を防ぎましょう。

・手洗い・うがい・定期的な換気、咳エチケットなどの基本の感染対策を行いましょう
・体調管理を行い、発熱や咳、のどの痛みがあるときは無理せず休養をとりましょう
・早めに医療機関へ受診し、必要に応じて検査を受けましょう

伝染性紅斑の報告が続いています

今週の報告数は1名と、4週連続で報告が続いています。大分県全体の定点あたりの報告数は3.64人で、先週の4.33人より減少しましたが、流行発生警報の終息基準値（定点あたり1.00人）を大きく上回っており、依然として高い水準にあります。

大分県では、第23週（6/2～6/8）に流行発生警報開始基準値を超えて以降、報告数の多い状態が続いています。

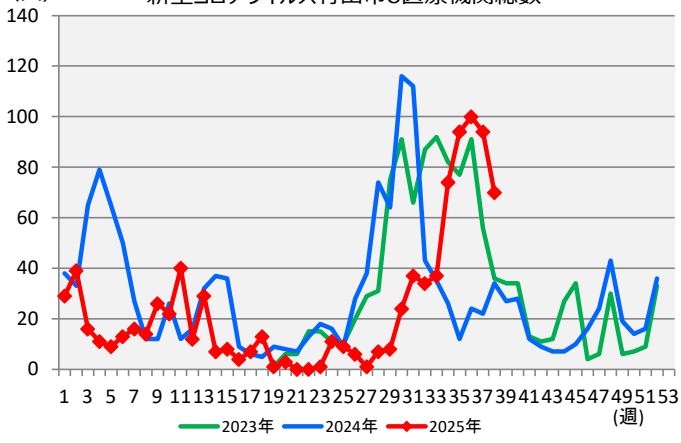
伝染性紅斑はリンゴ病とも呼ばれ、頬に特徴的な発疹（紅斑）が出現します。発疹がでる7～10日前には、微熱やかぜのような症状が現れ、その期間はウイルスが最も多く排泄されるため、二次感染予防が難しい感染症です。日頃から、咳エチケットや手洗いなどの基本の感染対策を行うことが重要です。

また、伝染性紅斑に感染したことがない女性が妊娠中に感染すると、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や流産のリスクとなる危険性があります。発熱後に発疹が出るなど、伝染性紅斑が疑われる症状がある場合は、医療機関へご相談ください。

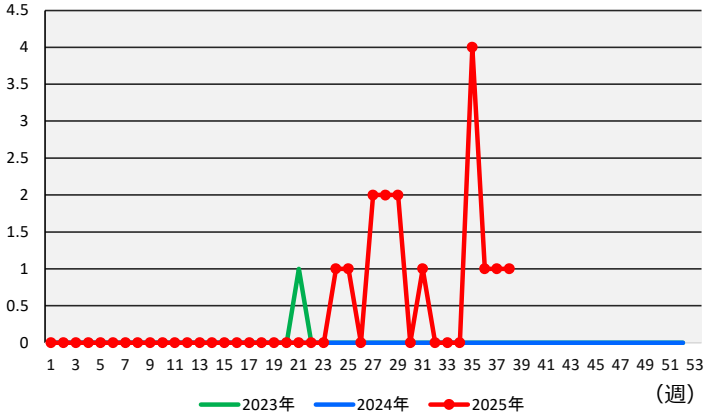
（第３８週）　（調査医療機関8か所の総患者数）

疾患名／年齢	インフルエンザ			新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱（プール熱）	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘（みずぼうそう）	手足口病	伝染性紅斑（リンゴ病）	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	マイコプラズマ肺炎	麻しん（全数報告）	風しん（全数報告）	百日咳（全数報告）	つつが虫病（全数報告）
	A型	B型	不明																
0歳																			
1～3歳				1							1		1						
4～6歳				4															
7～9歳																			
10～14歳				4															
15～19歳				4															
20歳以上	2			57				2											
今週	2			70				2			1		1						
	2																		
70歳以上（再掲）				24															
先週				94			1	2			1								

（人）　新型コロナウイルス竹田市8医療機関総数



（人）　伝染性紅斑竹田市8医療機関総数



大分県豊肥保健所　作成

感染症対策

伝染性紅斑（でんせんせいこうはん）

両頬に赤い発しん（紅斑）が出ることから
「リンゴ病」とも呼ばれる小児に多い感染症です。

10～20日の潜伏期間の後
微熱・かぜに似た症状

この時期にウイルスの排出が最も多くなります。

こんな症状がみられます

ほっぺたがリンゴのように赤くなります（紅斑）

発しんが現れたときにはウイルスの排出はほとんどなく、感染力もほぼ消失しています。発しんは１週間程度で消失しますが、中には長引いたり、一度消えた発しんが短期間のうちに再び出現したりすることがあります。

予防と対策

手洗い、マスク着用など
基本的な感染症対策を心がけましょう！

伝染性紅斑の主な感染経路は、「飛まつ感染」と「接触感染」です。こどもを感染から守るため、周囲の人も基本的な感染症対策を心がけましょう。

妊娠中又は妊娠の可能性がある方へ

これまで伝染性紅斑に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性があります。熱や倦怠感が出現した後に発しんが出るなど、伝染性紅斑を疑う症状がある場合は、医療機関に相談しましょう。また、感染しても症状がないこと（不顕性感染）もあるため、周囲に伝染性紅斑の人がいる場合は、妊婦健診の際に、医師に伝えてください。

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください

厚生労働省
感染症対策課 2025年5月作成

長引いた咳に結核疑って早い受診につなげよう

1年間で（2024年）

新登録患者数 **10,051人**

死亡者数（概数） **1,461人**

予防

呼吸器感染症

換気、手洗い・手指消毒などの
基本的な感染対策が有効です。
また、感染予防として
マスクの着用が効果的です。

早期発見

結核

せき・たんが2週間以上続いたり、
微熱や体のだるさが続く場合は、
早めに医療機関を受診しましょう。

手洗いマスク習慣づけて防ごう呼吸器感染症

インフルエンザ
新型コロナウィルス感染症
細菌性肺炎 など

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

内閣感染症危機管理統括庁
文部科学省

厚生労働省　結核　検索